

令和2 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和3年6月2日

法人名

園名

浄元福祉会

認定こども園 あかさかルンビニー園

まとめ

全体平均

3.86

第2章第2節 乳児期の園児の保育	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの興味・関心を受け止め、1対1での対応が生理的・心理的欲求を満たして、安心して生活ができるような家庭的な関わりや、接し方が大切である。 ゆったりとした気持ちを持ち、園児と一緒に楽しむ保育を心掛けていく。 色水、土、落ち葉などにも触れさせ、感触の違いを体験させるなど、いつでも温かく見守り、適切な援助を行うことが出来たと思う。 生活の中で感じたことを、遊びの中に取り入れて、イメージを膨らませている姿を温かく見守って、一緒に楽しむことが出来る。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの言葉にならない思い、表情、しぐさなどに目を配り、一人ひとりの思いに寄り添い、受け止めながら関わることを大切にしていきたい。 活動中に、子ども達がどんなことに興味があるかを見守りながら、夢中で楽しめるように環境を整えるようにする。 子どもの好奇心を刺激し、発達に応じての遊びや関わり方の工夫をする。 一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、保育計画を立て、職員間で共有する。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> 健康や表現に関しては、こどもの思いに寄り添い自分であろうとする気持ちを大事にしていることが感じられる。環境・言葉でも保育者と子どもの信頼関係がもてるように意識していく必要がある。 子ども達が、周囲の環境に対して何かに気付いたり、感じたりして、それを表現し、温かく見守り、共感し、心行くまで対象と関わることを楽しむことが豊かな感性を養育上で重要であることをしっかり押さえていく事。 コロナ禍で行事や活動等、十分にさせてあげられない部分もあったが、子どもの思いを受け止めながら、充実感を得られる活動をしたり、温かな活動が出来るよう工夫した。 遊びを通して、園児が心を動かされた経験を豊かに季節を感じたり、生き物を通して、命についても、心に感じてくれたらと思う。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの思い、考えに寄り添いながら、さりげない援助を心掛けたい。 園児一人ひとりの健康状態の把握に努め、職員間で連携を密に取り、保護者とも連絡をしっかりと取っていく。 子ども達の不安な思いや、上手くいかないもどかしさなど、気持ちを十分に受け止め、自発的に活動できるように援助していくと共に、手や口が出てしまう子の気持ちを気持ちを受け止め、理解し、対応していくようにする。 簡単な言葉のやり取りから、自分の気持ちを伝えられたという喜びを感じる経験を重ねていく事によって、よい言葉が生まれる。
第3章 健康及び安全	<ul style="list-style-type: none"> 衛生面・安全面に関してはみんなで話し合い、共通認識を持つことも出来ているが、災害時への備えはもっと緊張感を持ち、対応策等を考える必要がある。 各個人のアレルギーの確認は毎日し、誤飲など、職員間で声を掛け合って間違いないようにする。 食育部会で定期的に話し合い、目標を定める。 具体的な訓練や、様々な場合を想定して、災害発生時の対応等について高い知識と理解を身に付ける。 コロナ感染が園内で起きた場合のシュミレーションも職員間で共有する。 こまめな消毒、手洗い等を励行し季節に応じた体調管理も、園児と共に、職員も気を引き締めて心がける。
第4章 子育ての支援	<ul style="list-style-type: none"> 園の保護者の方との関わりには十分に気を付けて接していることが感じられる。 園児のあそび場、交流の場を作ることはもちろん、保護者の孤立にも目を向けて、いつも、家族や子どもとしか話すことがないという保護者の話し相手になることが、子育ての支援につながると思う。 発達障害のある子ども、じっとしてられない、言葉が気になるなどの子育ての不安に少しでも応えられるように、知識と理解を深めていく事が重要なこととなる。
第5章 職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 外部の研修など、多くの研修に参加する機会を作っている。けれど、限られた勤務時間の中で園内研修など工夫していく必要がある。 園内研修、公開保育などに向け、保育計画を立てたり、園児と対話しながら実践していく中で、保育の質を上げていく事を目標とする。 PDCAを心掛け、きちんと振り返りをしたり、自己評価したりしていくうえで、職員の資質向上を図る。
総合	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの興味・関心を受け止め、自己表現を楽しんだり、自己肯定感をもって過ごすことが出来るように、言葉をかけ、必要に応じた援助を心掛けたい。 安全面、災害時の対応に改善点が多いので、みんなで検討する時間を持っていきたい。 職員が研修等で知り得た内容を、職員間で伝え、学びあう時間を作り、その中で意見が言いやすく、学んだことを日々の保育に繋げていけるようにしたい。 子育て中の地域の親子が参加をし、楽しみながら親子でできる活動やあそびを提供し、子育ての悩みなども気軽に話せる場の提供に努める。 子どもの声や表情、体の動きなどから気持ちや欲求を汲み取り、優しく傾いたり、発声や喃語などでの表現を言葉にしてもらったり、子どもと信頼関係が築けるよう関わっていく。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.03
「3歳未満児保育」	32	4.02
「3歳以上児保育」	53	3.84
「教育保育の配慮事項」	16	3.69
「健康・安全」	29	3.69
「子育ての支援」	15	3.95
「職員の資質向上」	8	3.88
計	168	3.86

データグラフ

